

町から川から考えよう

～使い捨てプラスチックの発生抑制～

第6回川ごみサミット 報告書

2021. 2. 20



川沿い木の枝に引っかかったレジ袋を呆然と見つめる子どもたち(亀岡市保津川) 原田氏発表資料より

CONTENTS

- | | | | |
|----|---------------------------|------------------------|-----------------------------------|
| P1 | 開会挨拶 | 全国川ごみネットワーク座長 亀山久雄 | |
| P2 | はじまる脱プラスチック～川と海のつながりから考える | | 大阪商業大学 公共学部准教授 原田禎夫 |
| P3 | プラスチックからはじめる省資源・循環経済 | | 東京都環境局 資源循環推進部 古澤康夫 |
| P4 | 事例紹介 | ・海なし県での川ごみ削減 | 桂川・相模川流域協議会 日向治子 |
| P4 | | ・身近なところから”卒“プラスチック | 岡山県真庭市生活環境部 藤田浩史 |
| P5 | | ・mymizu 給水アプリでプラスチック削減 | Social Innovation Japan マクティア マリコ |
| P6 | 意見交換 | | |
| P9 | まとめ | 全国川ごみネットワーク事務局 伊藤浩子 | |
| | 閉会挨拶 | 全国川ごみネットワーク監事 菅谷輝美 | |

開会あいさつ

全国川ごみネットワーク 座長 亀山久雄

オンラインで参加のみなさん、そして緊急事態宣言の中にもかかわらず、命をかけて(笑)会場に来ていただいたみなさん、ありがとうございます。私は、全国川ごみネットワークの亀山と申します。

川ごみサミットは東京をはじめ、京都府の保津川、長野県の諏訪湖、そして徳島で開催し、今回で6回目となります。各地での事例を紹介しながらテーマを決めて開催してまいりました。

今回は「町から川から考えよう」～使い捨てプラスチックの発生抑制～というテーマで、まず、原田先生から亀岡市のレジ袋禁止条例成立に至る経過、古澤さんには東京都のごみの現状などを中心にお話しいただきます。



日本は世界的に見てもプラスチック大国。プラスチック容器包装の日本人一人当たりの使用量は米国に次ぐ世界第2位で、生産量は第3位。一方でプラスチック容器包装のほとんどが使い捨て利用を目的につくられています。

こうしたことを受け、昨年7月から「レジ袋の有料化」がスタートしました。亀岡市では今年1月から「プラスチック製レジ袋提供禁止」条例が施行しました。日々の生活の中で脱プラスチックを意識していくことが、解決に貢献できる大きなきっかけになるのではないかと思います。

企業には物を作る責任があり、市民はそれを使う責任があります。

自分事として考え、どんな社会にしたいのか、どんな町にしたいのか、みんなで悩み知恵を出し合いましょう！
大人たちが出したごみを、次代を担う子供たちに残すのはやめましょう！
差別のない、ごみのない、世界に誇れる国づくりを目指していきましょう！

今日は市民団体の方々はじめ、個人、地方自治体、国で働く職員、学者、企業の方々など多種多様な人たちが参加されております。

短い時間ですが、実りある討議となることを期待して、開会の挨拶といたします。



講演1 はじまる脱プラスチック～川と海のつながりから考える

大阪商業大学公共学部 准教授

NPO 法人プロジェクト保津川 代表理事 原田禎夫さん

小さなプラスチックごみが海の生物、プランクトンにまで影響、2050年には海のプラスチックごみは魚の量を上回ると予想されています。北海道の毛蟹の胃袋からプラスチックが見つかるなど日本近海には世界平均の27倍の密度でプラスチックが漂っています。



ミッドウェイのアホウドリの腹からライターが見つかりました。藤枝先生の研究では、ライターの半分は日本製だったそうです。魚や貝、ペットボトルの水、水道水、さらに妊婦の胎盤からごく微細なプラスチックが見つかるなど、次の世代に深刻な影響を及ぼすことが懸念されています。健康へのリスクはまだわからないことも多いのですが、「わからない」こと自体がリスクともいえます。

京都北部、冬の由良海岸はプラスチックごみで埋め尽くされ、酷い状態です。荒川や淀川はペットボトル等の飲料容器が多くみられます。淀川ではパナソニックなど企業のみなさんと一緒に清掃していますが、すぐ元に戻ってしまいます。日本のペットボトルの回収率は90%を超えていますが、一部が環境中に排出するだけでも、酷い状況になっています。

リサイクルされているペットボトルのうち35%強は海外でのリサイクルに頼っています。プラスチックごみの純輸出量(輸出量-輸入量)は日本が世界一となっています。ペットボトル入り飲料のうち、水やお茶の消費量が近年急増しています。日本の水道水は世界一安全なのに、ペットボトルに入った水やお茶を買う必要があるのでしょうか。マイボトルを普及させましょう。

プラスチックごみの海への流出が多いとされる国のうち、マレーシア、ベトナム、タイ、中国といった国には、日本からも大量のプラスチックごみが輸出されており、我々にも責任の一端があります。改正バーゼル条約により、汚れたプラスチックごみは輸出できなくなり、各国で処理を待つプラスチックが溢れています。

亀岡市は人口8.8万人。保津峡を中心として年間150万人を超える観光客が訪れます。観光地でもある保津峡には、プラスチックが破片になったものが多く、レジ袋が木の枝に引っ掛かり、花のようになっています。たった2人の船頭さんが清掃を始め、市民運動に発展しました。ある支流で2011年に初めて清掃活動を行ったときには20リットルの袋で190袋+粗大ごみ、あわせて2tトラックで2台分のごみが回収されましたが、2016年には10袋、粗大ごみ



なしとなりました。しかし、レジ袋やペットボトルは減りません。多くの市町村でレジ袋の有料化が当時から実施されていたように、レジ袋は市町村だけで対策が可能です。そこで亀岡市と市議会は、2018年12月に「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を発表しました。そして、2021年1月に、日本初となる「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」を施行しました。ごみ削減の観点から「紙袋等の無償提供も禁止」しており、違反すると店名公表という罰則があります。

こうした取り組みは市民の行動にも大きな変化をもたらしました。スーパーで学生が2019年11月にアンケート調査をおこなったところ、すでに有料化を行っていた亀岡市ではマイバッグ持参が8~9割に対しレジ袋規制のない東大阪市では6割と低く、そのほかの環境配慮行動でも亀岡と東大阪で大きな差がでました。

ごみ削減には、個人の努力に委ねるだけではなく、制度を作ることが重要です。イギリスでは、紙パック飲料に無条件でストローを付けることを禁止、NZでは、レジ袋禁止に従わないと罰金725万円。2019年のG20大阪サミットでは2050年までに新たに海に流れ込むプラスチックごみをゼロにする、という大阪ブルーオーシャンビジョンが発表されました。大阪府では、2050年のプラスチックごみ海洋流出ゼロに向けて、2030年にはまず半減させるという計画も作られています。ヨーロッパでは、サーキュラーエコノミーの考えが主流となり、ISOの新しい規格づくりにもこの考えが取り込まれています。

アメリカでは「プラスチック汚染からの脱却法案」が2021年3月に提出されます。この法案にはプラスチック製造工場の新規建設禁止等も含まれています。中国では中央政府の指令を受けて、各地で計画づくりが進められています。たとえば「北京市プラスチック汚染対策行動計画」では、各種プラスチック製品の製造・販売を禁止する行動計画を作成、冬季五輪でプラスチック汚染禁止のモデルとなることを目指しています。

海洋プラスチック汚染を解決するには国家、地域、企業、個人それぞれのレベルでできることに取り組む必要があります。地域レベルから国際的レベルまで、価値の共有が欠かせません。

講演2 プラスチックからはじめる省資源・循環経済

東京都環境局資源循環推進部 専門課長 古澤康夫さん

気候変動(温暖化)は厳しい状況となっています。平均気温が急上昇しており、19世紀最後と比較するとすでに+1.2°Cに達しています。パリ協定が目指す+1.5°Cの気温上昇で食い止めなければなりません。IPCC1.5°C特別報告書は、2050年までにCO₂の排出をゼロにする必要がある、と訴えています。

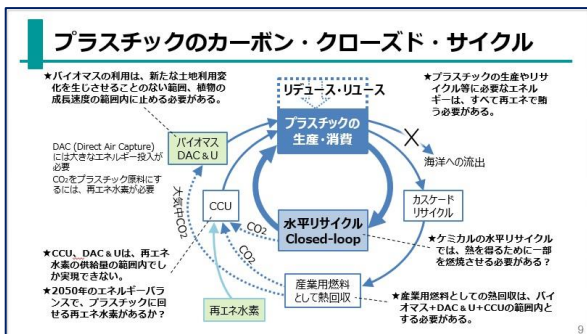
世界の都市と連携し、行動する必要があります。資源やエネルギーを大量消費したり、プラスチックの流出を続けたりしていると、海洋生物や、海洋資源に頼っている脆弱な国々、次世代に深刻な影響を及ぼします。

GHG(温室効果ガス)を減らすためには省エネが必須となります。GHGの45%は資源(食糧、素材)由来で、資源の使い方を変える必要があります。食料生産でも多くのCO₂を排出します。例えばバイオマス資源を利用すると、製品生産でCO₂が排出されるだけでなく、熱帯林が減少し、蓄えていたCO₂が放出されます。この



ようにサプライチェーンから考える必要があります。

CO₂を減らすには、プラスチックのリデュース、リユース、水平リサイクルが重要です。CO₂を回収して、プラスチックにするカーボンリサイクルが注目されていますが、これには水素が必要です。しかし、再エネ水素をどこから入手するかが課題となります。また、世界の熱帯林が急減するなか、バイオマスからプラスチックを生産することには制約があります。



東京都は、ゼロエミッション東京戦略を策定(2019年12月)。2030年にカーボン・ハーフ、2050年に実質ゼロを目指しますが、並大抵ではありません。急速に、広範囲な変革が必要となります。

2019年12月には、プラスチック削減プログラムも策定。プラスチック容器包装の分別をやっていない市区町村がありますが、容器包装リサイクルの拡大に向け区市町村を後押ししていきます。事業所からのプラスチックのリサイクルのルート作りや海外の都市との連携にも力を入れていきます。

新たなビジネスモデル構築への支援も行っていきます。伊藤忠紙パルプと行った事業ではプラスチック製品を紙に切り替えるとともにリサイクルを推進、花王とはワンウェイプラスチックの水平リサイクルに向けてパウチのモノマテリアル化などに取り組んでいます。LOOPは2021年3月に本格開始します。併せてテイクアウト弁当、デパ地下の総菜にリユース容器を使う実証事業も行っています。なお、サーキュラー・イノベーション・フォーラムを開催予定(3月8日)です。

プラスチックのみならず、資源の持続可能な利用に向け先進国には先導的役割を果たす責任があります。食料、金属、セメントなどを含め、カーボンニュートラルの実現のためには、資源利用を持続可能なものへ変革することが不可欠です。

事例紹介1 海なし県での川ごみ削減

桂川・相模川流域協議会 代表幹事

山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト事務局 日向治子さん

相模川は神奈川県の水道水源で、上流の山梨県は桂川となります。

相模湾の茅ヶ崎海岸には海ごみが散乱。沖の烏帽子岩の海底には、レジ袋に他のごみが絡んで沈んでいます。都会のカラスは巣をつくるためにハンガーを集めていますが、海岸のカラスは、プラスチック製品をあさっています。

海岸のごみはどこから流れて来るのか？ 環境省がペットボトルのラベルを調査したところ、海外からではなく、国内の川から流出したものが多くという結果がでました。



ごみの8割はプラスチックで、山梨県忍野の自宅近くの川には、土嚢袋や農業用マルチシートなどが漂着していて、中洲にはレジ袋の花が咲いています。

ごみのほとんどは町の生活から川へと流れて来ます。ライフスタイルを見直すことが必要ではないでしょうか。

山梨県は、「山梨県プラスチックごみ等発生抑制計画」を2020年3月に策定しました。

県内には3つの源流があり、内陸⇒中下流域⇒海と繋がっています。自分事として活動を続けていきたいと思っています。

事例紹介2 身近なところから卒プラスチック

岡山県真庭市生活環境部環境課 参事 藤田浩史さん

真庭市は岡山県北部にあり市の面積の約8割が山林です。木質バイオマス発電などに取り組みバイオマス産業都市、SDGs未来都市になっています。最近では2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指すゼロカーボンシティを宣言しました。

市の中心を岡山県の三大河川の一つ旭川が流れています。本日、みなさんへのお土産に名物の羊羹を持って参りました。旭川は昔は高瀬舟で河川舟運が栄えていました。羊羹は舟の形をしています。

2020年5月より市が所有している食器(学校、病院で給食用に使用していたもの)を、リユース食器として無料で飲食店に貸し出す取組を始めました。当初は「きたないのではないか」と批判がありましたが、「お店のお皿と同じ、出前と一緒にですよ」と説明しています。また、タッパーなどのマイ容器でのテイクアウトも推奨しています。リユース食



生産～使用～廃棄までの ライフサイクルアセスメントで考えてみよう



器の利用、マイボトル、マイ容器などごみを減らすテイクアウトを「エコテイクアウト」として定義し、実践店には市で作成したチラシを掲示したり市のホームページでPRするなどして推進しています。

モノは生産～使用～廃棄までのライフサイクルアセスメントで考えることが大切です。飲食店などではプラスチック容器より紙容器の方が環境にやさしいというイメージが多くあります。しかし、汚れた紙はリサイクルできないので、必ずしも紙が環境に良いとは言えません。

また、あるカフェでは、行動経済学ナッジ理論を応用し「ストローを出さないことを基本にし、必要な人は申し出る」しくみを導入してもらいストロー使用を9割削減することができました。ごみ対策にはリデュースが一番大事です。

事例紹介③ mymizu アプリでプラスチック削減

Social Innovation Japan 代表理事 マクティア マリコさん

過剰消費問題に取り組んでいます。

沖縄を訪れた時、海岸に大量のプラスチックごみやペットボトルが漂着しているのを見て、「日本は美味しい水道水に恵まれているのに、なぜペットボトルの水を買うんだろう？」が、活動のきっかけとなりました。

個人で取り組んでも、なかなか成果が見えませんでした。マイボトルを持っていても、給水所がないと使えません。このため、無料給水アプリ「mymizu」を作り、給水所の場所が分かるようにしました。現在、世界の20万か所で実施しています。

日本では47都道府県、800店舗以上が登録。イケア、アウディ JAPAN という有名企業から、田舎の蕎麦屋さん、牧場まで登録しています。小さい行動からプラスチック削減をしていることに意義を感じています。



mymizuによって、一人一人の成果が可視化されるように



給水トラッカー

- ・削減できたペットボトルの本数
- ・CO2排出量の削減
- ・お金の節約金額
- ・飲んだ水の量

mymizu

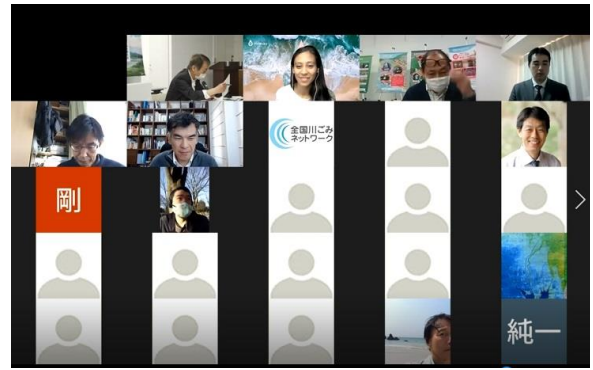
給水による効果を知るため、アプリの中でペットボトル削減量、節約できた金額、CO₂削減量が見える化しました。知り合い同士、ゲーム感覚で競い合うこともできます。企業と共同でWS、ビーチクリーンを行ったり、SNSコミュニティを作成したりもしています。

今、世界40か国が参加してくれていて、メディアにも取り上げられています。海ごみゼロアワード2020も受賞しました。

環境を良くするために何かを犠牲にするというより、より良い選択をするという意識をもつことが大事ではないでしょうか。

意見交換(敬称略)

意見交換には、登壇者の他にもアドバイザーとして国土交通省河川環境課 天野聡企画専門官、環境省海洋環境室・海洋プラスチック汚染対策室 飯野暁室長補佐、また参加者にも積極的に加わって頂きました。



亀山(座長) 今回はオンライン含めて約 100 名の方に参加い

ただいています。事前に受け付けている質問から質疑を始めます。まず、「プラスチックごみによる人への健康被害について、現状が知りたい」との質問がきております。

原田(大阪商業大学) 人への影響についてはまだまだ分からないことが多く、証拠集めをしている段階ではないでしょうか。予防原則から言えば取り返しがつかなくなる前に取り組む必要があると考えます。

飯野(環境省) 知見がまだ無いのが現状ですが、現在の暴露量はかなり低く、食物連鎖の下位のところから調べている段階です。微細なプラスチックだけではなく、元になる大きなままのプラスチックごみの問題にも注目していく必要があります。

亀山 次の質問は、「プラスチックに含まれる有害な化学物質の影響」です。日本プラスチック工業連盟からひと言お願いします。

加藤(日本プラスチック工業連盟) 問題がないとは言えませんが、規制基準から照らしてまだ微量であり、そこから体内に取り込まれるということなので・・・。

岸村(三井化学(株)) もともとプラスチックに含まれている化学物質もありますが、海洋中でマイクロプラスチックに吸着される PCB 等の化学物質が問題視されています。マイクロプラスチックに吸着した化学物質が実際の海洋環境中で生物に及ぼす影響については、日本化学工業協会による委託研究が進められており、今年中には結果が出るものと思われます。



加藤 マイクロプラスチック由来よりプランクトン由来による化学物質の摂取の方が多い。将来、プラスチック由来の濃度が高まれば懸念もあります。

亀山 次に、「内陸部からごみ流れ出るという視点で活動されている理由は何か」との質問がきています。

日向(桂川・相模川流域協議会) 生活の中から出てくるプラスチックごみが多く、川の上流でも多くのマイクロプラスチックがみられます。その元となる身の周りからプラスチックごみを削減、絶対的な量を減らすことが重要です。

原田 人や生き物への影響も心配ですが、保津川でいえば船下りなどの観光産業や漁業にとっても脅威になっています。人口の多少にかかわらずできることから取り組むことが大切です。

亀山 次に、「中国をはじめ、ごみが輸出できなくなり、国内で溜まっているプラスチックごみ、特に産業廃棄物などはどのような状況か。」という質問です。

古澤(東京都) コロナ禍で事業系の廃プラスチックの量が減りました。それ以前は、首都圏から遠方に持っていかないと受け入れ先が無い状況でした。

原田 事業系ごみが少ない地域、家庭ごみの増え方が大きい地域などケースバイケースで、売却益が出なくなっていることなど状況は様々ではないでしょうか。

亀山 次に、「亀岡市のレジ袋提供禁止の取り組みは実現までとても大変だったと思うが」との質問です。

山内(亀岡市役所) 条例化に向けて新たに協議会を設立、35 団体に参画いただき、時には厳しい議論もありましたが、

議論していく中で、事業者側も消費者の理解が得られるのであれば対応していくとの意見も出てきました。そこで市職員が市内全地域を回って説明会を実施し、最終的には 70%の方の賛成が得られました。条例施行後には、スーパーでは約 98%のレジ袋の辞退率、コンビニでも 90%以上というように市民に意識の変化が生まれました。やはり、市民の理解を得ることが一番大事であるということを実感いたしました。



亀山 ここからは、課題解決に向け、私たちにできることはなにかについて話をしていきます。

藤田(真庭市役所) 川ごみ、海ごみはプラスチックごみが多いですが、プラスチック自体が悪いわけではなく、要は使い方の問題でしょう。また、真庭市ではごみ処理に年間 7 億円かかっている処理費がごみ袋一袋で約 500 円もかかっています。このようなごみ処理の実情を市民にも伝えていくことが大切ではないでしょうか。

亀山 マリコさんは、沖縄の海岸ごみを見て今の取り組みを始まれたとのこと。今後、どのようなことを考えていきたいと考えていますか。

マリコ(mymizu) 新たな文化をつくることにつながれば良いので、企業とのパートナーシップが一つ、他にも自治体との取り組み、住みやすい街にしていくことを考えています。SNS、メディアの利用に加えてチャレンジ的な取り組み、削減量を競うゲーム化などによって広げていきたいです。

亀山 飲料メーカーの今後の取り組みはどうでしょうか。

岡本(全国清涼飲料連合会) 大前提としてプラスチックを賢く使い、付き合っていくことです。飲料業界では、各飲料メーカーがリデュースを進めており、消費者の生活スタイルや環境に対する価値観にあわせ、ラベルレス製品の販売なども始まっています。加えて、リサイクルにおいては、循環型の水平リサイクルとして、東京都とボトル to ボトル活動に取り組んでいます。自販機脇の容器回収ボックスへの異物混入の改善にも取り組み中です。



古澤 消費者の応援も必要。物の作り方とか新しい売り方など、大手企業にも動いてもらうことが必要ですが、小回りが利かないこともあります。大胆な変化には、新たなビジネスを支えるための制度設計も国レベルで必要です。

亀山 他にも質問がきています。「アクリルたわしがマイクロプラスチックの問題から好ましくないと聞きましたが本当でしょうか。レジ袋については、ごみ袋としての需要があるのではないのでしょうか。」

原田 論点が二つあります。ごみ袋にプラスチック素材を使っていること自体を変えていくこともあります。プラスチック袋の売り上げが急増したとのニュースも聞きますが、必要なくても無料配布されることが問題であって、配布禁止によって総量として削減できることになるので、ごみ袋として使う話とは切り分けた議論が必要となります。

小島(JEAN) アクリルたわしの問題については、もう使用を止めていくべきだと思います。また、繊維状のマイクロプラスチックが多いということも注目されています。

亀山 次に、「生産されたペットボトルやプラスチックが有害と認識されたのであれば、なぜ事業者には責任が無いのか」です。

古澤 法制度としては 25 年前の容器包装リサイクル法に事業者の責務があります。国でも新しい法案が出されるようですが、プラスチック自体が有害だから直ちに回収しなさい、という話ではありません。

亀山 「東京都のごみ対策、分別などについて知りたい。」との質問がきています。

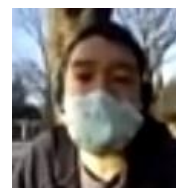
古澤 ごみ処理は区市町村が担っていますが、分別収集がされていない自治体もあります。住民一人当たりの回収量の差は地域によって大きく、都は区市町村への支援を行っています。人口が多い 23 区で分別収集が行われていな



い区があることは大きな影響があります。

亀山 環境省や国交省の方から、市民への要望をお聞きます。

飯野 市民、消費者としての一人ひとりの話ですが、川ごみネットワークなどが取り組んでいる回収活動はベースとして大変重要なことです。大きな力を持っていることなので、様々なごみ拾いのアプリや手法を使って参加者を増やしていく、世代を越えて引き継いでいくことを期待しています。



天野(国土交通省) 海ごみへの注目の中で、陸域へ視野を広めていくことは大切です。今日の発表にもありましたが、楽しく、多くの人に取り組んでいることが広がっていくことを期待します。川のごみを回収することや身近な生活の中から取り組むなど、河川管理者の取り組みであるミズベリングなどの施策も含めて、楽しく参加してほしいです。



亀山 最後に、ゲストスピーカーのみなさんからひとつお願いします。

日向 年間を通して河川清掃活動していますが、ここ 2-3 年、様々な方が参加し始めています。最近はいちご捨てというより産業廃棄物の不法投棄が多くなっているので、行政の力も必要です。意見交換をしながら、市民と行政が協働で取り組んでいきたいと思えます。

藤田 国がプラスチック資源循環戦略を作りレジ袋有料化に動き出しました。レジ袋有料化だけが伝わり、戦略全体が伝わっていないです。全体的な情報発信も必要です。また、リサイクルの前にリデュースに力を入れてほしいです。マイボトルの取組も飲料メーカーとバッチェングしない工夫をするなどプラスチックとうまく付き合っていくことが必要ではないかと思えます。

古澤 プラスチック以外の資源問題についても、いろいろな方が違う視点で関わっていくことが大事ではないでしょうか。

マリコ クリーンアップの重要性として、参加者の意識変化があります。どんなところからリデュースできるか、新しい仕組みを含めてパートナーシップを通した啓発活動などを考えていきたいです。

原田 亀岡市内にウォーターサーバーを市内全校に設置することになりました。環境予算も倍増しました。企業、行政や議員も巻き込んで社会の合意、制度などを作っていくことも必要です。企業で頑張っている取り組みに対しては、市民からの応援の発信も大事なことです。

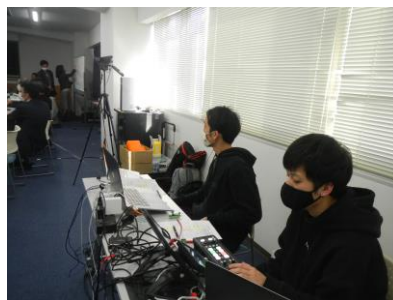
亀山 貴重なご意見ありがとうございました。今日の川ごみサミットは25団体、100人を超える参加数でした。オンライン併用の効果で、地域的には東北地方から四国、九州まで幅広く利用していただきました。参加者は市民団体はじめ国や地方行政に携わる人、学識者、企業、業界団体など多様で、釣り人や個人で参加された方もおられます。質問や意見、感想など30数通が寄せられましたが、時間的制約からすべてを取り上げることができなかったこと、お詫びいたします。

熱心な議論のさ中、オンライン画面の向こうからお子さんのはしゃぐ声が聞こえました。会場に笑みがこぼれ、温かい日差しが舞い込んだような雰囲気となりました。

今後も川ごみサミットを大きな広場として活用していただくようお願いして意見交換を終わります。



会場では、カメラ撮影、オンライン配信が行われました



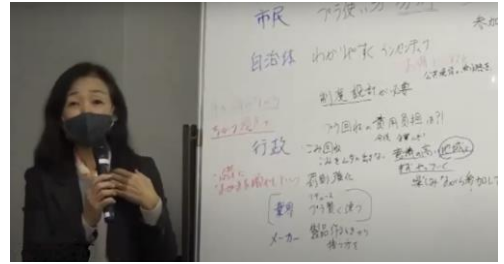
会場には、今年度制作したパネルを展示パネルは希望者に貸出します

まとめ

全国川ごみネットワーク 事務局 伊藤浩子

川ごみサミットで皆さまからいただいたお話をふりかえります。

亀岡市が全国に先駆けてプラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例を施行され、住民の意識向上につながったことは励みとなりました。上流から川ごみを削減しようと活動している山梨県・桂川での活動も紹介されました。真庭市のエコテイクアウト、東京都のLOOP、mymizuアプリなどが紹介され、これまでにない新しい仕組みづくりのカギとなるものでした。マイクロプラスチックの人への影響についても業界団体、専門家から現状の説明をいただきました。



意見交換を通して、3つのキーワードが考えられると思います。

その第一は、**楽しみながら多くの人を巻き込む**、ということです。川の清掃活動も大変重要で、それによって市民の環境意識が変わります。企業との連携、アプリ活用、若者に参加を呼びかけるなどを行い、海ごみ・川ごみが自分事となる市民を広げることです。それには、楽しみながら活動することが求められているのではないのでしょうか。

第二は、**市民と事業者、自治体の連携を築く**、ということです。市民のプラスチックの使い方をわかりやすく伝えるのが自治体。そこにインセンティブ・ビジネス化などの制度設計があると広まります。市民と事業者、自治体が手を組みながら取り組むことが大切です。パートナーシップを築いて新しいしくみ・新たなビジネスモデルができることになります。

第三は、**新たな仕組みづくりの制度設計**です。企業が動き、消費者が応援してできる新しい仕組みやビジネスモデルの制度設計が求められ、それを国が支援し、社会の仕組みにしていけることが大切です。

これら三つの事柄は関わり合っています。連携し、新たな仕組みづくりによって、楽しみながら多くの人を巻き込む。それぞれが理解し合いながら進めていくことが大事だということ色々な事例で紹介いただいたことと思います。

本日はたくさんのお話をありがとうございました。

閉会挨拶

全国川ごみネットワーク 監事 菅谷輝美

第6回「川ごみサミット」は、コロナ禍での開催となりました。会場とオンライン併用となりましたが、100人以上の方々に参加いただきました。北は山形から南は四国、福岡まで地域的に幅広い参加を得ました。これもオンラインのおかげ、と、前向きに評価いたしております。参加者は、市民団体はじめ学識者、業界団体、地方行政職員など多様で、環境省と国土交通省の職員さんにはアドバイザーとして意見をいただきました。



開催にあたっては理事らによる手作りの準備、設営だったため、皆様にはお聞き苦しい点が多々あったと思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

今回のサミットは、後日 YouTube で配信いたします。また、毎日新聞にも掲載の予定です。

映像を担当していただいたATSURAEUのみなさん、ご協力ありがとうございました。

岡山から空路で会場まで来ていただいた真庭市職員の藤田さん、ありがとうございました。包装にプラスチックを使っていない舟形の「羊羹」、美味しくいただきました。

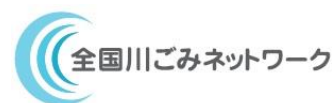
次回のサミットでまたお会いできることを期待して、閉会のご挨拶とさせていただきます。

これまでの川ごみサミット

毎回、市民団体や個人、行政担当者、民間事業者、研究者など、多様なセクターの多くの方にご参加いただき、事例紹介、意見交換などを通して、川ごみ問題の解決に向け共に考えました。

	開催日	開催地	参加者数
第1回川ごみサミット	2015/1/23,24	東京都千代田区 (ハロー会議室秋葉原)	61
第2回川ごみサミット	2016/1/22	東京都千代田区 (明治大学リバティータワー)	85
第3回川ごみサミット 亀岡保津川会議	2017/3/4	京都府亀岡市 (京都学園大学亀岡キャンパス)	55
第4回川ごみサミット in 下諏訪	2018/11/24	長野県下諏訪町 (下諏訪総合文化センター)	130
第5回川ごみサミット in とくしま	2019/11/9	徳島県徳島市 (とくぎんトモニプラザ)	200
第6回川ごみサミット	2021/2/20	東京都文京区 + オンライン (全水道会館) (ウェビナー)	100

全国川ごみネットワーク



全国川ごみネットワークは、プラスチックごみなど川の環境問題に取り組む市民団体が集まり 2013 年よりゆるやかな情報交換をスタートし、2015 年に任意団体として設立しました。

ごみのない美しい川や海をとりもどすこと、自然と共生する循環型社会の構築をめざし、全国の河川・湖沼・海洋環境の保全に取り組む団体、ごみ削減に取り組む団体・個人などが連携し、川ごみの削減に取り組んでいます。全国的なネットワークで、情報共有と課題解決を推進します。

会員募集中！

団体の趣旨に賛同いただき、会員となって、共に、美しい川・湖沼・海を取り戻すことを目指すためにご支援ご協力をお願いします。正会員(団体・個人) 年会費 一口 2,000 円

賛同会員(団体・個人) 年会費 無料

【理事・監事】

[座長] 亀山久雄(ふるさと清掃運動会) / [監事] 菅谷輝美(新河岸川水系水環境連絡会)

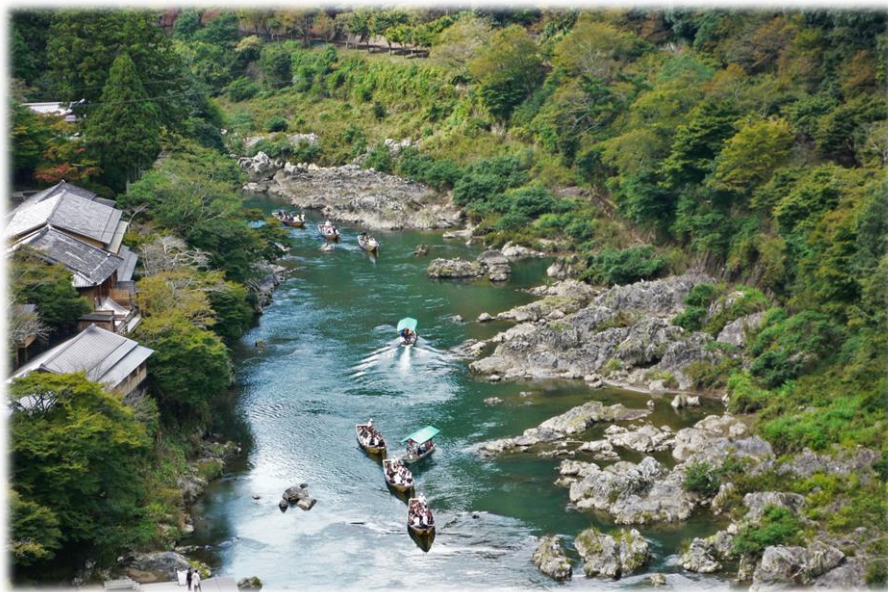
[理事] 小口智徳(下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会)、金子博(NPO 法人パートナーシップオフィス)、小島あずさ(一般社団法人 JEAN)、近藤朗(22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会)、佐山公一(全国水環境マップ実行委員会)、柴田洋雄(美しい山形・最上川フォーラム)、仲井圭二、原田禎夫(NPO 法人プロジェクト保津川)

[事務局] 伊藤浩子



目に入る人々のすべてがマスク姿の街
 さながらSF映画のようだ
 Zoom会議やオンラインで仕事に連われる日々
 そして一年
 色とりどりのマスク 派手な柄の手作りマスク
 じいちゃんも 孫の手作りマスクを自慢する
 早じまいの居酒屋に代わる オンライン飲み会
 コロナ禍で 市民が市民を監視する社会より
 少しでも前向きに考えようとする人 好きだ
 春 もうすぐ始まるごみ拾い
 ごみ拾いは下向きでも
 おしゃれでかっこいいごみ拾いは楽しい
 ゴミガールやうい

写真：マクティア マリコ氏発表資料より



保津川下り

第6回川ごみサミット

- 【日時】2021年2月20日(土)13:00-16:00
- 【会場】全水道会館 + オンライン (ウェビナー)
- 【参加者数】100名 (会場27名+オンライン73名)
- 【主催】全国川ごみネットワーク
- 【協賛】一般社団法人プラスチック循環利用協会
- 【協力】MOTTAINAI キャンペーン、株式会社ATSURAEU
- 【助成】公益財団法人河川財団 河川基金



河川基金

公益財団法人河川財団による
 河川基金の助成を受けています

第6回川ごみサミット報告書 2021年3月

全国川ごみネットワーク 〒132-0033 東京都江戸川区東小松川 3-35-13-204



TEL : 080-8167-8577 E-mail : kawa53@kawagomi.jp

<http://www.kawagomi.jp/>